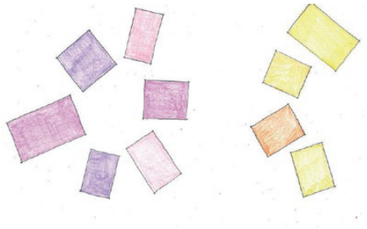
03. 配置計画

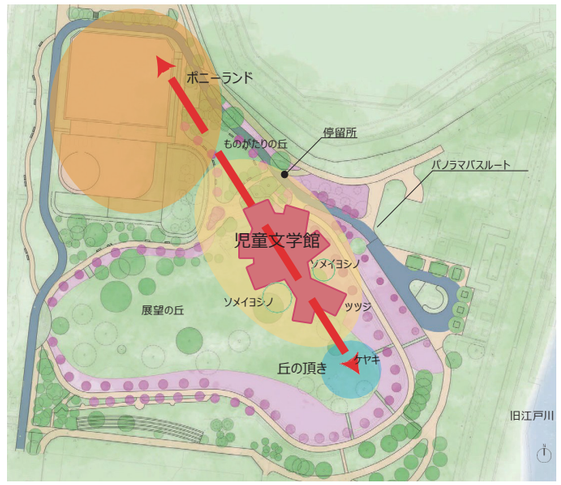
■ 人と緑と活動をつなぐ、 丘と一体化した建築

- 見晴らしの良い丘の頂きとポニーランドを結んだ軸線上に、丘と一体化した建築を配置し、公園内の活動をつなぎ活性化させます。 ソメイヨシノやケヤキ、ツツジ等、展望の丘を彩る既存樹を出来るだけ保全し、多くの人に親しまれている展望の丘の景観を継承します。
- 一部のエリアを地中に配置して、丘から大きく突出しないヴォリュームにします。
- 既存樹木を積極的に活用したランドスケープとします。

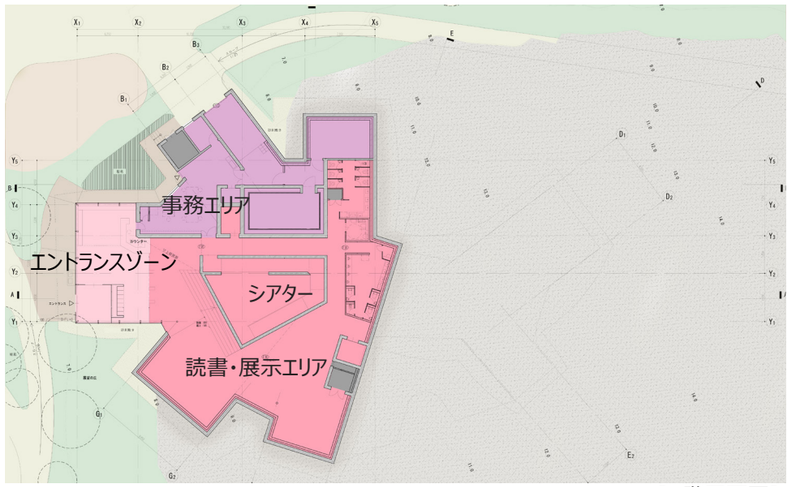
■ 丘に溶け込む「おうち」のような小箱の集まり

- 角野さんの世界に登場する「おうち」のような小箱が集まった構成とし、子どもたちの身体スケールに馴染む空間をつくります。
- 小箱の構成は、緩やかに起伏する丘とも馴染み、緑豊かな公園環境との調和を図ります。





[人と緑と活動をつなぐ、 丘と一体化した建築]



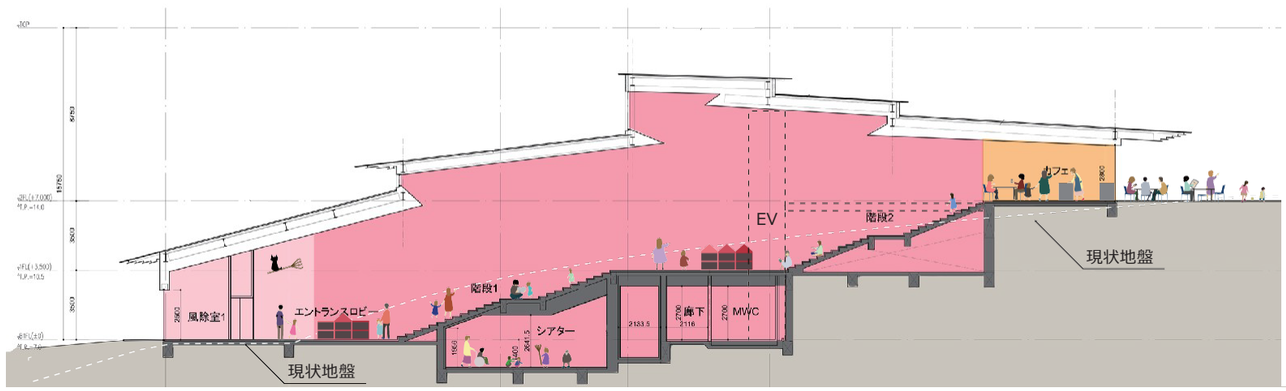
[1 階平面図]

04. ゾーニング計画

- 1階に、読書・展示エリアを設けます。
  ものがたりに触れるきっかけをつくり、子どもたちの想像力を引き出します。
- 2階は、展示室と読書エリアを設けます。
  展望の丘を臨める、明るく開放的な読書テラスをつくります。
- 3階は、カフェゾーンを設けます。

05. 断面計画

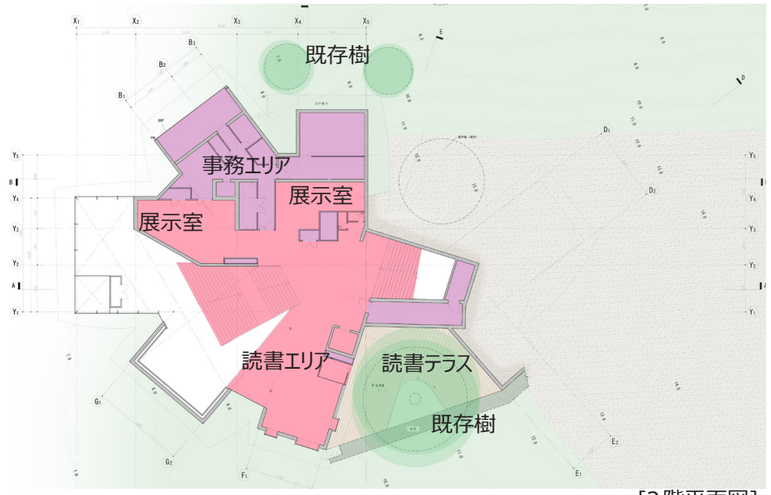
- 周辺のスケール感に配慮し、 建物高さを可能な限り抑えるとともに、ボリュームの分節やセットバックを採用することで周辺に対する圧迫感を和らげる計画とします。



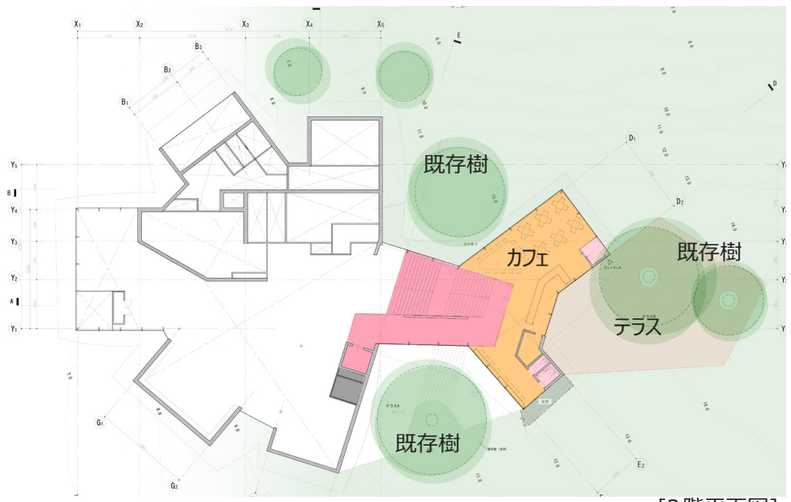
[断面図]

06. ユニバーサルデザイン計画

- 子ども連れ、障がい者、高齢者の来館者等の幅広いニーズに対応した計画を行います。
- すべての階段は、踏面を広く、蹴上を低くし、勾配の緩やかな計画とし子どもや高齢者に配慮します。
- 施設の中央にエレベーターを設置し、車椅子やベビーカー利用者に配慮します。



[2 階平面図]



[3 階平面図]

06.内装計画

■角野さんの世界観をつくる「いちご色」

- 角野さんのテーマカラーである「いちご色」を基本色としたカラーパレットを用い、角野さんの世界観が空間全体で体感できる内装デザインとします。

07. 外装計画

■ 丘の大地と響きあう「フラワールーフ」

- 屋根は花のように軽やかなひろがりをつくるフラワールーフとします。特徴的なフラワールーフは、丘に華やかな印象をつくります。

■「いちご色」を引き立てるニュートラルホワイト

- 室内で展開される「いちご色」のファーストインプレッションを高めるために、外装（外壁、窓枠、屋根等）の色は「いちご色」と対比したシンプルなニュートラルホワイトにします。
- ニュートラルホワイトは、窓越しに見える室内の「いちご色」を引き立て、それを印象的に表出させます。
- 深い庇による影の濃淡や、朝から夕に移ろい変化する淡い光の色を繊細に表出させるニュートラルホワイトは、無垢な白いキャンバスとなって、四季折々に変化する周囲の公園環境に溶け込みます。

■ 内外を繋ぐ「おおきな窓」と家のようなスケールをつくる「しかくい窓」

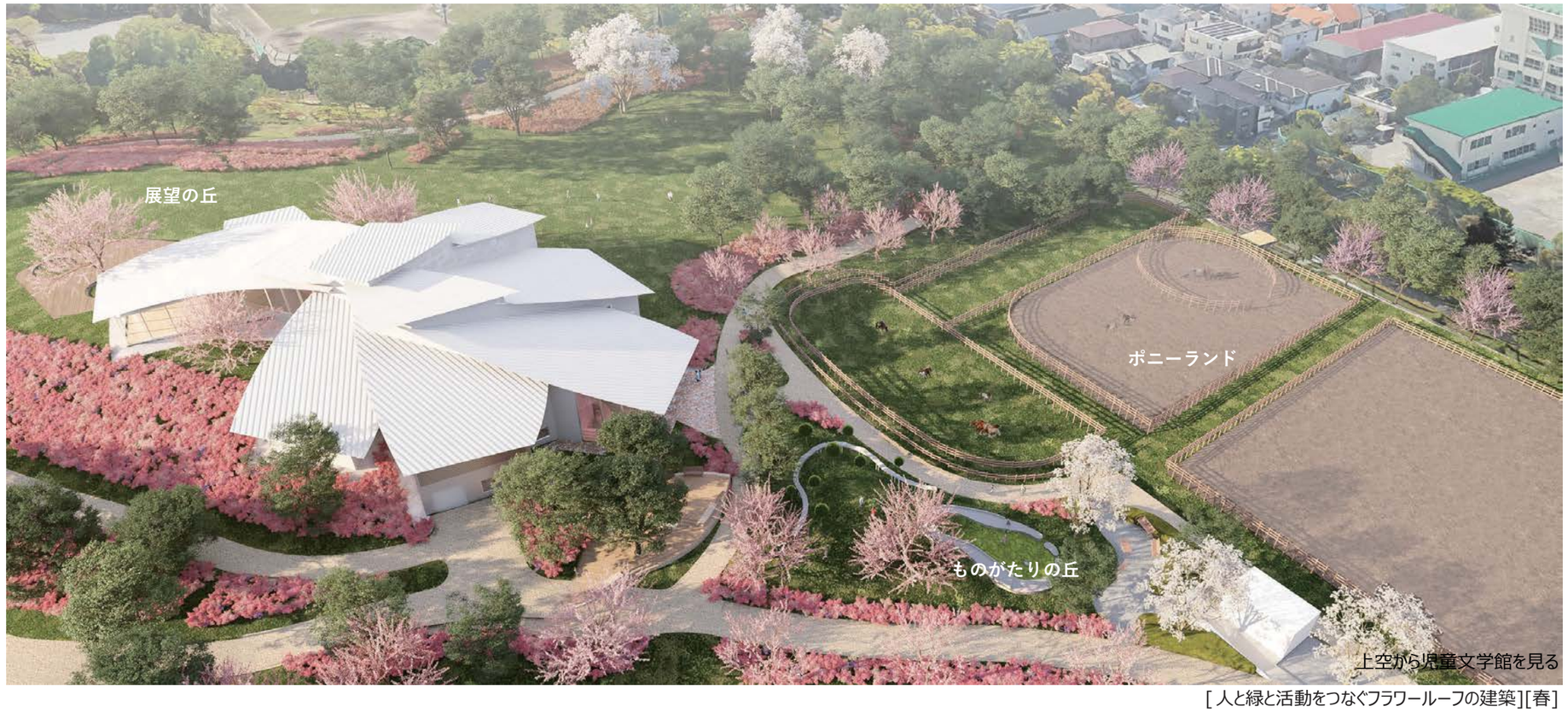
- 出入口部分は内外の見通しをつくる「おおきな窓」にし、気軽に入りやすいアプローチをつくります。
- 外壁には大きさや高さが違う「しかくい窓」を設け、家のようなスケールをつくります。「しかくい窓」は風景を切り取るピクチャーウィンドウや、情報を発信する展示ケースとして機能します。

[夏]

[秋]

[冬]

[気軽に入りやすい透明感のあるガラスファサード]



[人と緑と活動をつなぐフラワールーフの建築][春]

※現時点でのイメージであり、実際とは異なる場合があります。

01.ランドスケープコンセプト

■緩やかな丘が連続する一体的な空間

- 子どもたちが角野さんの世界観を楽しめるよう、自然と触れあいながら、自ら遊びを発見する場として整備します。
- 児童文学館の前庭は、展望の丘から地形が緩やかにつながる「ものがたりの丘」として整備します。ものがたりの丘の西側に隣接するポニーランドの放牧場は、児童文学館の建設に伴い拡張します。

02.動線計画

■来園者とパノラマシャトルの動線の分離

- 児童文学館とものがたりの丘、ポニーランドに囲まれたエリアは、人が中心の空間として整備し、パノラマシャトルはその外周部を巡るように歩行者動線と分けて整備します。
- パノラマシャトルは、展望の丘、児童文学館、ものがたりの丘、ポニーランド等をゆっくり巡り、児童文学館と一体的に整備された景観を眺めることができます。

03.景観計画

■四季折々の表情が楽しめる花の名所づくり

- 既存のカワヅザクラやツツジ、アジサイなどを活かし、展望の丘のツツジ山の魅力を高め、新たに「花の名所」をつくります。四季折々の花を整備することにより、児童文学館だけでなく、なぎさ公園を訪れる多くの皆さんに楽しんでいただけます。
- 1月ロウバイ、2～3月サクラ、４～５月ツツジ、６月アジサイ、８～９月サルスベリ、11～12月紅葉など、一年を通して楽しめる植栽を計画します。

04.園路計画

- 児童文学館へのアプローチは、ポニーランドとものがたりの丘を通るルート、森のトンネルを通るルート、展望の丘の花の名所を通るルートの3ルートを設け、それぞれ特徴的なシークエンス（移動景観）を演出します。

[全体平面図]
地図情報提供元: Google, ©2020 ZENRIN

※現時点でのイメージであり、実際とは異なる場合があります。

[展望の丘からポニーランドまで一体となる空間]

05.ものがたりの丘の計画

児童文学館の前庭として、子どもたちが安心して遊べる「ものがたりの丘」をつくります。

■ オリジナルデザインの遊具

- 子どもたちが自らの意思で活動する場をコンセプトに、子どもたちの遊びの行動特性に沿った「楕円形状の遊環構造」とします。
- 滑り台を中心に、飛び石、ボルタリングなどが連続する遊具は、登ったり、滑ったり、はねたり、掴むなど、多様な運動動作を誘発します。
- 長期にわたる維持管理に対応するような安全性、耐久性、経済性に優れ、周辺環境に調和する仕上げ材としてクッション素材を採用し、色彩は児童文学館の外装計画に沿ってホワイトを採用します。

■ アプローチを演出するまるまるの木

- 児童文学館の前庭となるものがたりの丘に、可愛らしいフォルムの「まるまるの木」を特徴的に整備します。
- 子どもが活動の中心となるため、「まるまるの木」は高さを揃えず、アットランダムな配植で景観植栽を行い、児童文学館への期待感を高めるシークエンス（移動景観）によって魅力的な演出を図ります。
- 「まるまるの木」の間に、ものがたりの丘の緩斜面に沿ってロングベンチを整備します。

[児童文学館の前庭となるものがたりの丘]

■ けやきテラスとこもれび広場

- 児童文学館前に新たなパノラマシャトルの停留所を設置します。
- ケヤキやイチョウの既存樹木を保全した場所にけやきテラスを整備し、待ち合わせや休憩の場として活用します。
- ものがたりの丘の遊具やポニーランドで遊ぶ子どもを見守る方々のため、ものがたりの丘の既存トイレのそばに緑陰効果の高い樹木を植栽し、こもれび広場を整備します。
- こもれび広場とけやきテラスは、子どもから大人まで、様々な楽しみ方ができるよう、色々なタイプのベンチを設置します。

[森のトンネルとけやきテラス]

※現時点でのイメージであり、実際とは異なる場合があります。